

マシン油乳剤 トモノール S	取扱メーカー： O A T * 原体メーカー： —
成分： マシン油……………97.0% その他 PRTR 該当成分： ポリ（オキシエチレン）＝アルキルエーテル〔PRTR・1種〕…1.4%	性状： 淡緑色透明可乳化油状液体 毒性： 普通物 消防法： 第4類・第3石油類（非水溶性）・危険等級Ⅲ

【品目特性】 ……………

- 高級潤滑油を原料に開発した高度精製マシン油剤。
- 物理的な殺虫効果を示し、抵抗性ハダニに対して、優れた効果がある。
- 浸透性に優れ、粗皮下、樹皮の割れ目などで越冬する害虫にも高い効果がある。
- 有機 JAS 使用可能農薬。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】 ……………

〈かんきつ〉

- 3月に使用する場合は、なるべく早めに使用する。この場合、石灰硫黄合剤の散布はさける。
- 4～5月の使用は、12月～3月にマシン油乳剤を使用されない場合に、ミカンハダニの防除に使用。

〈果菜類〉

- 収穫間近に散布すると、果実にオイル光を生じるおそれがある。
- ハダニ類に対しては速効性が不十分であり、また、1回散布では効果が不十分であるので、なるべく発生初期に7～10日間隔で繰り返し散布する。
- うどんこ病に対しては、病害の発生前～発生初期から7～10日間隔繰り返し散布。発病後の1回散布では十分な効果は得られない。

〈いちご〉

- いちごに使用する場合は他剤との混用、近接散布はさける。

〈茶〉

- 摘採前4週間は使用しない。
- 5～9月の使用は、摘採直後の幼虫発生期に合う。
- クワシロカイガラムシ対象の場合は、樹幹が十分濡れるよう、また株元に十分かかるように散布。

【薬効・薬害等の注意】 ……………

- 散布液調製後は速やかに使用。
- 散布直後の降雨は、効果の低下となる。特に冬期では晴天の続く時に散布。
- 高温時の散布は薬害を生じやすいので、散布は日中をさけ朝夕の涼しい時に所定濃度範囲の低濃度で行う。
- 果菜類の幼苗期の散布は薬害を生じるおそれがあるのでさける。また、連続散布する場合の散布間隔は7日以上あける。また、過度の連用はさける。
- 石灰硫黄合剤、ボルドー液などのアルカリ性薬剤やジチアノン剤、TPN 剤など及び銅剤との混用はさける。
- りんごの芽出し直後の散布は時期を失しないように散布する。遅れた散布をすると、葉の周囲が褐変することがあるので、使用濃度に注意する。
- かんきつに使用する場合は下記の事項に注意する。

- 散布後、葉（特に旧葉）に油浸斑を生じることがあるが日数の経過に従って、消失し、落葉を助長することはない。但し、かんばつ等で樹勢が弱っている場合は散布しない。
- ジチアノン剤との近接散布はさける（果実に薬害）。
- ジメトエート剤との混用はヤノネカイガラムシ第一世代防除時期には、樹勢により落葉を助長することがあるのでさける。

- いちごに使用する場合、急激な気温上昇時は、がく焼けを助長するので使用をさける。
- また、軟弱苗や異常高温時は葉害を助長するので使用をさける。
- すいかに使用する場合、着果後の散布は果実の外観を悪くすることがある。果実にかからないように散布する。
- すももに使用する場合、所定濃度で使用する(葉害)。
- 桑に使用する場合、発芽後の散布は葉害を生じるので、冬期又は夏切直後に使用する。

【安全対策上の注意】

- 甲殻類に影響を及ぼすおそれがあるので、使用時は注意。
- 散布器具・容器の洗浄水及び空容器等は適切に処理する。
- 自動車などにかからないようにする(塗装汚染)。



【適用と使用法】

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	10a 当り 使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	マシン油を含む 農薬の総使用回数
か ん き つ	カイガラムシ類	60～ 80 倍	200～ 700 ℓ	12～3月	—	散布	—
	ハダニ類	100～ 200 倍		4～5月			
	ヤノネカイガラムシ幼虫 ハダニ類			夏期			
り ん ご	ハダニ類	25 倍		発芽前			
		50 倍		芽出直前直後			
		100 倍		展葉期 (発芽後2週 間まで)			
		200 倍		展葉期 (発芽後3週 間まで)			
	カイガラムシ類	25～ 50 倍		発芽前			
ハダニ類							
カイガラムシ類							
カイガラムシ類 ハダニ類及び越冬卵							
な し	カイガラムシ類	100 倍		発芽後2週間 まで			
も も							
ネクタリン							
か き							
お う と う				発芽前			
う め							
す も も							
小粒核果類 (うめ、すもも を除く)							
キウイフルーツ							
び わ							
き ゆ う り	うどんこ病 ハダニ類	200 倍	100～ 300 ℓ	—			

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	10a 当り 使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	マシン油を含む 農薬の総使用回数
いちご すいか なす	ハダニ類	100～ 150倍	100～ 300 ℓ	—	—	散布	—
茶	クワシロカイガラムシ	50～ 100倍	1000 ℓ	5～9月 10～3月			
	チャトゲコナジラミ	100～ 150倍	200～ 400 ℓ	5～9月			
		50～ 100倍		10～3月			
	カンザワハダニ チャノナガサビダニ	100～ 150倍		5～9月			
		50～ 150倍		10～3月			
桑	クワシロカイガラムシ	30倍	50～ 200 ℓ	12～3月			
	クワシロカイガラムシ若齢幼虫	50～ 60倍		5～11月			

適用農薬名	作物名	使用方法
ベノミル剤	なし	本剤でベノミル剤を20倍に希釈し、塗布する